

No. 882

美と技を競う

—国際選抜体操—

中日新聞社主催の国際選抜競技大会が12月5日・6日の両日、名古屋市の愛知県体育館で開かれました。ソ連、チェコなど世界のトップクラスの男女19選手が参加。

あん馬の神様として知られるユーゴのチェラールは練習中にケガをして、おしくも出場を断念しましたが、女子はソ連のブルダが常に安定した演技で得点を重ねて優勝。

日本男子期待の中山も終始余裕のある力強い技を披露、ソ連のクリメンコを押えて、堂々優勝を飾りました。

暮しのなかの国鉄

万博閉幕後客足がすっかり遠のいた国鉄。

営業成績はガタ落ちで一日一億円の減収とか。『日本再発見』、『美しい日本と私』などキャッチ・フレーズに旅行客を増やそうと増収作戦を展開した。

しかし、どうにもならないのが国鉄の赤字。各ローカル線の合理化を計ると共に旅客営業センターを新設し、職員が工場や農家など歩いてまわるセールスぶり。

栃木県真岡市を走る真岡線は廃止の声も聞かれる代表的赤字線。そこで真岡市長は一計を案じた。

利用実績を少しでもあげ、廃止線からはずしてもらおうというねらい。こうして生まれた真岡市民号は切なる市民の願いを乗せて出発した。しかし、国鉄側は冷たいもの。もはやローカル線の使命は終り、今やモータリゼーションの時代だと言う。

真岡線。茨城県下館、栃木県茂木間42kmを走る操業開始明治45年。日本の半世紀間走り続けたローカル真岡線も近代化の波にもまれその姿を消してしまうのだろうか。暮しのなかの国鉄がかかえる問題は大きい。